



## シリーズ徳田の今・昔

### 稲はぞ&ボンネットバスの風景

「広報とくだ」では、新しく「シリーズ徳田の今・昔」を企画しました。徳田の昔の風景や行事、身近な出来事、記録などの写真を探して紹介していきたいと考えました。今回は、千野町の中山吉郎さんに、「一枚の風景写真」をお借りしました。

この写真は、昭和30年の国道159号線の様子だそうです。現在の円山クリニック（健やか）からコンビニのサークルKにかけての様子です。道路の両端には、稲刈りをした後の稲束を干す「はぞ（はざ）」が組まれて、その中をボンネットバスが走る光景です。

秋の収穫時には、たんぼの端、道端に「はぞ」が並んで組まれていました。農村では、どこでも見られる当たり前の風景でした。そして、家族が総出で稲刈りをしました。夕陽が西の空に傾き、夕闇が迫ってくるまで、刈った稲束を集め、「はぞ」に掛けていました。

現在の国道159号線は、当時、「産業道路」と呼ばれ、コンクリートやアスファルトの舗装がなく、砂利道が続いていたそうです。



## シリーズ徳田の今・昔

### 徳田駅と昭和天皇の行幸

今回は、飯川町の守澤徳一さんから「昭和天皇の県立七尾農業高等学校(現・東雲高等学校)行幸のお写真(徳田駅)」をお借りしました。

後にも先にも、徳田駅に昭和天皇が降りたことは、この一度だけです。昭和天皇を迎えるにあたり、周辺の道路の整備が急がれたそうです。

また、駅舎は改築される前のもので、その姿を覚えている人も多いと思いますが、駅前の道路は、舗装がされていなかったようですね

「昭和33年10月24日、全国にもかつて例を見なかった天皇・皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、親しく生徒の学業のご視察を賜った光栄と感激は、終生忘れることのできない貴い思い出である」と、当時の校長、故平野昌平氏が、「人と自然 交流誌(13)」で振り返っています。

また、鳥屋小学校の児童だった人が、「わざわざ、徳田駅へ来て、昭和天皇のお車に旗や手を振ったことを覚えている」と、当時の話をしてくれました。



シリーズ徳田の今・昔

## 千野町公民館の町内運動会

今回も千野町の中山吉郎さんに「町内公民館行事の写真」をお借りしました。

昭和44年8月、公民館の広場で班別対抗の町内運動会が開かれました。その種目の一つに、この写真の「玉入れ」を実施しました。お年寄りや子どもも一緒になって競技を楽しんでいました。

当時、千野町公民館のお盆にかかる行事には、午前中、帰省した人も参加して、運動会やバレーボールなどのスポーツ大会が催され、夕方には、町民あがての「盆踊り」がありました。

現在、班別対抗の公民館行事には、お盆の午前中に開催される「グランドゴルフ大会」があります。また、「盆踊り」は、「夏まつり」となり、八月の第一日曜日に終日開催されるようになりました。

公民館広場の横の田んぼは、今はもう埋め立てられ、果樹畑、育苗のハウスが作られています。



## シリーズ徳田の今・昔

### 耕地整理とトロッコ

今回は、千野町の中山吉郎さんから「工事現場の写真」をお借りしました。

昭和34年の土地改良工事の現場で、工事に人夫としてかかわった町内の人たちの集合写真です。

当時の土地改良工事は「耕地整理」といわれていました。この工事には、かかせない機具が「トロッコ」でした。線路を引いた上に四輪の箱板を乗せ、人力で押して動かすものです。スコップや鍬、つるはしを使って土を掘ったり削ったりして、その土をトロッコに乗せて運んでいました。

工事が長期に渡って休む時、トロッコが線路と一緒に公民館や神社の広場に置いてありました。子どもたちにとって格好の遊び場・遊び道具になっていました。みんなで一緒に押したり引いたり、そして乗り込んでと…、しかし、その様子を通りがかりの大人が、大声で叱りつけるのも度々でした。そんな思い出をもっている人も多いでしょうね



## シリーズ徳田の今・昔

### 茅葺の屋根&瓦の屋根

今回は、千野町の杉森利雄さんから「家の屋根替えの2枚の写真」をお借りしました。昭和39年、茅葺きの屋根から瓦に替えたそうです。茅屋根の家は、田舎では普通に見られる風景でした。

しかし、その補修には、たくさんの茅束が必要でした。杉森さんの納屋には、補修用の刈り取った茅束を確保・保管していたそうです。また、職人さんを確保するなど、年々、その準備が大変になっていたそうです。

38' 豪雪の時には、屋根の茅の一部分が積もった雪と一緒に抜けて、ぽっかりと屋根に穴が空いてしまいました。町内の皆さんの協力を得て、何とか補修できたそうです。そんなこともあって、茅葺きから瓦の屋根に替えたそうです。



昭和 46 年 10 月 撮影・旧公民館の全景



平成 18 年 9 月 撮影・旧公民館の全景

## シリーズ徳田の今・昔

### 千野町公民館と「ちの会館」の完成

地域の活動の場である多目的集会場「ちの会館」が平成 22 年 2 月に完成しました。60 数年前、「千野町青年会館」「青年倶楽部」の名称で建物があったことを年配の人ならご存知のことと思います。

1955 年（昭和 30 年）、千野町公民館組織が発足し、事務所を「青年会館」に置き、7 月に、「町内公民館公報 1 号」を発刊しました。同じ頃、公民館建設委員会による建設準備も始まり、旧市立太田小学校校舎の払い下げを受け工事が始まりました。翌年 1 月、盛大に落成式が行われました。

その後、何度かの改修工事を繰り返したのですが、時代の流れとともに建物の老朽化が進み、合理的な利用がしにくいことなど、現代にマッチした集会所の建設の話が浮上しました。平成 17 年の調査・準備期間を経て、翌年 1 月の町会定期総会から臨時総会等を重ねて、「建物を新築する」ことが承認されました。県及び市のコミュニティ施設整備補助事業制度を利用すること、名称を「ちの会館」にすることを決めました。

千野町民の念願であった「ちの会館」が完成し、新しい活動の拠点として多いに利用されることを願っております。

（建設委員長・中山吉郎）



平成 22 年 3 月 撮影・ちの会館の全景